これで貴方も夢のチート転生者くん（オリ主はモンスター）

夢幻操士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
これで貴方も夢のチート転生者くん（オリ主はモンスター）

【Ｎコード】
Ｎ００６３Ｕ

【作者名】
夢幻操士

【あらすじ】
ある日、親父が買ってきたゲームで鉈出茲　麗が転生するお話し。

頑張れ・・・主人公

最初はあまり読んでも関係ないですｗｗｏｒｚ

現在、改稿中・・・・・・涙

プロロ～グ（前書き）

初モンハン二次創作頑張っていきます。

ちなみに私の力は夢幻操士です

プロロ〜グ

さて、ここはどこだろう。
真っ白な部屋。殺風景だ。置いてあるのは椅子…とその上に髪の白い女の子の人形がある。

『人形じゃないわ』
ん？いまのは…誰もいないはずなんだけどなぁ。
『……いや、いや、椅子に座ってるって』
椅子？……ああ、これか、でも人形が……

――――――動いた・・・

『だから言ったでしょ、椅子に座ってるって』
「……なにこれ、どうなっとるん！？」
ていうか、マジでここどこだよ！
『私のマイルームだけど、なんか文句ある！？』
まぁ、いいや。えっと出口出口っと。
『いいのかよ！……出口は無いわよ…だって、あれ使ってくれたんでしょ』
「あれって何だ？」
おお！！俺、人形と会話してるよ〜！俺、順応性高いな〜。やっぱ夢操士の力かな？
『あんた、何言ってんの？……まぁ、いいや。あれって言うのは【これで貴方も夢のチート転生者くん】よ』
「いいのかよ！しかも…ネーミングセンス無っ！」
しかし、あれは親父が買ってきたゲームじゃ…（売れ残り商品）
『うっさい！！…あれ使ったの？使ってないの？』
「使ったけど……それがどうした！？」

説明しておこう。これで貴方も夢のチート転生者くんとは、ある日、俺の親父がニートで厨二な俺をもはや神頼みレベルで家から追い出す為に買ってきたゲームだ。（売れ残り）
『使ったのなら…貴方を転生させてあげる。』
「……頭、大丈夫？」
『あんたにだけは言われたくないわ！！とりあえず、どの二次元がいいのか言いなさい！』
そこまで言うなら……どれがいいかなぁ、あれも、これも……捨てがたい！
「んー、よし！できるならモンハンが良い！」
『わかった～モンハンね。能力はどういうのが欲しいの？』
魔法、気、変身、超能力、魅了ｅｔｃ．．．
「なら、成長上限無し、と不老、超自然回復能力がいいなぁ」
『思っていたよりも……まともね』
「自分で努力して、こその力だからな！」
我ながらいい事を言ったな……キリッ！
「容姿は……イケメンでいいわね」
かわいそうなものを見る目で見られた……ジョニーいくらなんでもそりゃ無いぜ！
『ジョニーじゃないし、神だし！武器は？』
「最初は太刀でかっこよくて強めで」
『何とかしてみるわ。装備は？』
何にしよう、迷ってしまう！
『めんどいから、ユニ〇ロシリーズでいいわね！？』
えっ？なにそれユ〇クロって。
『呼び出したかったら念じてね……じゃあ、いってらっしゃーい！』
「ちょっ、ま……」

こうして鉈出茲（ナタデココ）　麗（レイ）は、旅立った。

プロロ～グ（後書き）

いかがでしたか？

これからも頑張っていきますのでよろしくお願いします。

感想・指摘・アドバイスお願いします

いざ・・・・・・出陣！！??（前書き）

今回は文がおかしいことが多々ありますが・・・気にしない方向で

では、どうぞ

いざ・・・・・・出陣！！??

「うっ、うわぁー！」
　いやー、マジでヤバイ！上空一万フィートからの無装備ダイビング並みにヤバイって、まぁやったことないけど。ビルから墜ちるってこういう感じなんだな。墜ちたら確実に死亡だよね！まだチートボディじゃないから着地も出来ないし。転生して十数秒で死亡は・・・・・・嫌だ！まだ何も出来てないし、いくら超自然回復能力があっても即死じゃあ・・・ねぇ。
　取り敢えず神様とやらを呼んで助けて貰おう！・・・・・・
「どうやんだっけ？」
　そうだ！祈るか？
『いきなりどうしたの？』　　見た通りさ、このままだと即死です。助けて下さい！
『ああ、大丈夫、大丈夫それは助かるように出来てるし』
「　それはどういう？」
『そんなのはすぐわかるわよ』
「ギャーー！！！」
　叫んだときには胴体着陸寸前。地面に着く～～～！！
――――フワッ・・・
「おお！浮いた！浮いた！」
――――ドサッ！
「痛っ！おぅ～、こ・・・腰が」
『ほら！いったとうりでしょう。って、何やってんのよ！早く起きあがりなさい！』
　フッ、この夢操士の麗様に指図をするとは頭が高いわ！
『あ゛！！てめぇ、何様のつもりだ！？もう一回スカイダイビングでもするか！？』
「嘘です！すみませんでした！」

――ザァー！！
　　これぞスライディング土下座！
『聞こえ無いなぁ、もう一回いってよ』
「嘘です！すみませんでした！」
『フッ、人間ごときが！まぁ、今回は許してやる。だが、次は無い』
　怖い！見た目はめっさ美少女なのに怖いよ～！でも可愛いから目指せ？神るーと攻略？つかそんなルートあんのかな。
　・・・取り敢えず。
「えっと、ここどこですか？」
　そう、今俺は見渡す限りの森のなかにいる。
『いやー、見ればわかるでしょ。教えてあげられることは、あんたがいた時代から二億年くらい前ってこと』
――二億年くらいまえって・・・・・・人間いなっ！
　漆黒のG『魔王』が居るのはわかります。

『まぁ、取り敢えず頑張って～』
「ちょ、まっ」
　逃げられた・・・どうすんのこれから。人間がいないって・・・・・・ん？待てよ、ここはモンハンの世界だ、もしかしたら・・・もしかするかも？
　まぁ、歩いてればわかるかな。
――カサカサ――
　なんだ？・・・・・・フッ、ただの『魔王』か？
ん？……サ、サイズが……キ、キングサイズだとぉ！？
――カサカサ――

無理！マジ無理！こっちくんなって、速いよ、速すぎ！

「そうだ！武器だ武器・・・おっ！」

背中にあるのは白銀の太刀。

「あった！これで・・・糖！」

――ヒュッ！

「えっ！・・・」

『魔王』は真っ二つ～……だが斬った感触がない。

「って、強っ！！」

『ああ、それね。強いのは今だけだから～』

いっ、いつの間に！

「って！今だけ！？それって・・・なんで？」

『もうそろそろ普通の太刀になって、さらに、あんたが強くなると弱くなってく』

なんじゃ、そりゃ！

「強くならないと・・・」

想像しただけで気が狂いそうだ。

『そりゃあ、死ぬね。余裕で』

そうか、ならば毎日努力・・・それが、人生！

『お前が言うな！・・・まぁ、精々頑張れ！』

――そして三百年後――

「ハァァァ！！」

白銀の太刀が一閃・・・・・『魔王』の頭が胴から離れる。

これで『魔王』は消え去った。・・・・・・・・・はず？

「もう三百年前の俺とは違う。この刀も、もうナマクラだ！それは俺が強くなったから・・・」

――――フュ～～～～～――――

「あ？え？えぇ～～～！」

――――ふゅ～～～～～

「ちょと、ちょと待った～！」

――――ドスン！！！！――――

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆

いざ・・・・・・出陣！！??（後書き）

最後のあれはなんだったんでしょうねｗｗ
まぁ、次回になればわかりますよ

指摘・アドバイス・感想よろしくです。

仲間？（前書き）

投稿遅れました。
今回は内容がスカスカなのでまた少し書き足しておきます。
では、どうぞ

仲間？

――ドスン！！――――　いきなり、何かが墜ちてきた！しかも俺の上に。
「いったたた。なんなんだ？」
かなりのスピードだったぞ！。

――プニュン――――

えっと・・・プニュン？顔にやわらかな感触が！
まぁ、俺は顔を動かし、墜ちてきたものを確認する。
「んっ・・・」
うん、女の子・・・しかも飛びっきりの美少女だよ！しかもさっきまで顔に当たっていたのは胸！なんかくらくらしてきた。
「おーい、おーい！」
取り敢えず起こして見たけど、生きてんの？
「おーい、起きて！」
再度チャレンジ！次こそ起きてもらわないと、そろそろ日が落ちる。
「んっ・・・・・・ふあぁ」
おっ！起きたな～。早く家に帰らないと、デカイ虫とかが出て来るからな。俺も最初は気持ち悪いので苦労したからな。
「ひゃっ！・・・・・・あれ？ここは？」
墜ちてきた彼女は、俺の上から驚きながら、飛び退く。
なんか、この展開見たことあるぞ。
『おひさー！急だけどその子の面倒、よろ』
「えっ、いきなりなんで！？」
『何でって、その子もあんたと同じであのゲームをやって来たから丁度いいかなぁ～、って』

「えっ！？貴方もあれをやって来たんですか？」
落ちてきた子がさりげなく会話に参加してるし、って神様の声って他の人にも聞こえるんだ。神様、押し付けにきたな。
『（ボソッ）あんな可愛い娘なんだから、まぁ、よろ』
「（ボソッ）・・・神様」

――――グッ！――――

俺は神様と熱い握手を交わす。
「・・・こんなところじゃ危ないから、家で話をしよう」
「えっ？危ないって？」
俺は驚いている彼女を抱え（お姫様抱っこ）五キロほど離れた家へ走る。

――――テッテッテ――――

途中で女の子の可愛らしい悲鳴が聞こえ、ああ、久しぶりの人間だ～。とか思ったのはここだけの秘密だ。
★　☆　★

――――マイホームにて――――

「えっと、じゃあ君の名前は？」
何処にでもあるベターな質問。しかし今はこのベターな会話が必要だ・・・たぶん。
「……私の名前は神原　麗です。えっと、麗でいいですよ。それで、貴方の名前は？」
彼女は礼儀正しくお辞儀をする。
「えっと・・・俺の名前は鉈出茲　麗です」
すっげぇ恥ずいっす。苗字がナ☆タ☆デ☆コ☆コだから！彼女

は、まぁ麗ちゃんは必死に笑いを堪えてるし。誰だよ！こんな苗字にしたのは！★作者★

「うふふっ！ナタデココですか？面白い苗字だね。したの名前は・・・私と一緒だ。取り敢えず宜しくね、麗くん」

グボァッ！！眩しい眩し過ぎるよ、その笑顔。俺の脳内では・・・麗ちゃんもうやめて！麗のライフポイントはもうゼロよ！とかいってるやつがいる。

確かにライフは残っていないが、ここからがオレのターン！そしてイキナリ砕けすぎだよ麗ちゃん。

「これから少し話だけ今までの人生何をしてたのか話す？」

我ながら唐突過ぎるやり方だな。でもこれ以外話題が思いつかん！

「うん！」

ニコニコ笑顔いただきました！麗　鉈出茲でるぞ！と、まぁなにが出るのかは知らんが。

「まぁ、俺は世田谷育ちのニートかな」

なんとも典型的なダメ人間。てな感じで話が進む。

★　☆　★

話を聞いていると、麗ちゃんは人気コスプレイヤーだったらしい。あとはカク

カクシカジカだ。（これはまたの機会にｂｙ作者）

おっと話をしていたらもう夕食の時間じゃないか。

今日の夕食はモスと特産キノコのステーキです！

用意する材料は

一人前

モス肉・・・・・・１００グラム

特産キノコ・・・・・・５０グラム

ブラックペッパー・・・・・少々

塩・・・・・・少々
あとはお好みで醤油、わさび等
　えっ？醤油があるのかだって？それは大人の事情。
　作り方
作り方は簡単ブラックペッパーと塩で下ごしらえしたモス肉を中火で両面こんがりになるまで焼く。あと特産キノコを刻み強火で一気に火を通し皿に盛り付ける。それからは、ワサビ醤油をつけて食べる。これだけ。
　機会があったらつくってね。（よゐこは真似しないで下さい）
「うわぁ！これ美味しい。麗くんて料理上手なんだね」
　これが唯一自慢できる俺の特技。これだけは譲れない。

★　☆　★

――――1ヶ月後――――

「武器の扱いも大分慣れてきたな」
　あれから1ヶ月俺と麗は呼び捨てで名前を呼んだり、まぁ、いろいろと仲良くなってきた。
「そうだね麗。そろそろ『魔王』狩りにいっても大丈夫」
　麗も武器〔双剣〕に慣れて来たので『魔王』を狩りに行こうかと思う。
『うぃーす。二人とも目を閉じて～』
　いきなりなんなんだ？まぁ言われた通りに目を閉じた。
　あれ？・・・・・・・・・・・・
――――ここ、どこ？――――

仲間？（後書き）

マジ、スカスカでしたね。

どうにか頑張って、少しずつ足していきます。

感想・アドバイス・指摘おねがいします。

これが本当のぷろろ～ぐ（前書き）

今までの話があまり関係なくなってきます？
急な展開ですが
頑張っていくのでどうぞ。

これが本当のぷろろ～ぐ

あれ？ここどこ？しかも目の前に黒色のレウスっぽいのが？
めっちゃ近い・・・・・・怖っ！
それが段々近づいて・・・・・・・
―――ペロッ
「キュ！キュイキュイ（な、舐められた！）
あれ～？自分が喋るとキュイキュイ言うって・・・・・・・嫌な予感しかしない。
「キュ、キュイ？（どうなってんだ？）」
体に違和感を感じた俺は腕？を見る。
―――なっ！Σ（゜Δ゜＊）
・・・・・・翼、腕が翼に！そんなことを考えていると
『ねぇ、貴方私達の可愛い子よ（母）』
目の前にいる黒色のレウスみたいなのが喋ってる。・・・・・・・
こ、子供って。
「キュイ、キュ、キュイ！（・・・・・・わかった、わかったぞ！これは夢だモンスターが喋るわけない）」
そう言いながら頬をつねると・・・な・・・に？つねれないだ・・・と？
そ、そうだこうなったら神を呼ぼう！！！
『どうかした～？』
どうかした？・・・じゃないでしょ！！なんでモンスターなんですか！？
『まぁ、なんとなくだよ。因みにさっきまでのは夢だから～。能力は使えるからね。困ったら何か言って』
こっちが夢じゃなくてあっちが夢かよ。もうヤバイパニックって頭がオカシクナッテキタ……
『取り敢えず用事あるから。がんば？』

はぁー。もうこうなったら強くならんと・・・・・・狩られる。絶対強くなる！！

そんなことを思っていると黒色のレウスっぽいの（父）が

「なんとも美しい子だな、この子なら私達の夢を継いでくれるよ、母さん。・・・・・・レイよ、しっかり母さんを護れるように修行して強くなれ！」

「キュ、キュイ！（わ、わかりました！）

恐らく俺の父？は台詞に死亡フラグの匂いをさせている。モンスターが修行かよ？・・・・ｏｒｚ

「生まれたばかりなのに言葉がわかるとは凄いな！さすがは我が子だ！」

そんな親馬鹿する時間も過ぎ

――――数年後――――

かなり話が飛んだがまぁ、いい。

父が母と幼かった私を残して亡くなった。　理由は、モンスターの棲みかを荒らしたハンター、いや人に対するモンスターの攻撃を止めようとしたせいだ。

モンスター達は人を滅ぼし、再び平穏な世界を、と言った考えが出ていた。そんななか俺の父は人類とモンスターの共存共栄を考えいた。話ができそうな奴に戦う以外にも、方法はある。と言っていた。・・・・・・だが、父の話は相手にされず、人とモンスターによる争いが始まった。

結果はどちらもかなりの犠牲者を出し、痛み分けとなった。

もしこの戦いに父が止めに入らなければどちらかが滅びる形で終わっていた。

そんな、俺の父は戦いが始まる前、俺に大切な者を護るため、戦い方を教えてくれた。

父はいつも言っていた、力はいくらあっても足りない。護りたい者を護るのに力が無くては無意味がないと・・・・・・。

父上の夢は俺がかなえるさ！？

☆

☆

★

これが本当のぷろろ～ぐ（後書き）

ホントイキナリでした
つくりが雑ですが後ほど直して生きます

感想・指摘・アドバイスお願いします。

おっちゃんと……（前書き）

またまた投稿遅れました
　すみません
ではどうぞ

おっちゃんと……

「なぁ、レイ。おっちゃんどうしよう・・・・・・」
　いま俺に話し掛けて来たのは俺のおっちゃん（ミラルーツ）・・・・・・まぁ、父さんの親友。・・・・・・だから共存共栄主義者って他の古参の竜にバカにされる。でもカッコいい（俺的に）おっちゃんは『あいつらは所詮、竜。龍には慣れない無能な奴等』だって言う。でも『龍かどうかは生まれじゃないの？』と聞いたことがあった。それにたいしてのおっちゃんの答は『あいつらが有能であれば今からでも龍になるくらい出来るさ。龍と竜の違いは先を見通した考えが出来るかどうか、だ』悪い、悪いおっちゃんのカッコいい話にそれた。
　まぁ、最初に戻って、あのおっちゃんが俺に相談しにきた理由はだな、
　――――くしゃみで村を一つ消した――――
　って・・・・・・・くしゃみで村が消し飛んだ？嘘だろうと思って・・・・・・・現場に行ったら、辺りいったい焦土になっていたんだ・・・・・・・
　辺境の村だったから消えたのに誰も気付かない。
　だからハンターは呼ばれないけれど、おっちゃんは沢山の命を奪っちまったって悩んでる。
　よし！ここはおっちゃんの為に一肌脱ぐかな。
「おっちゃん、しょうがないよ。過ぎてしまったことは、どうしようもないんだから。」
「レイ、でもなぁ」
「じゃあさ、その人達に対する弔いとして、あそこを森にすれば？」
　これならエコで土地を無駄にしないＺＥ☆
「おお！それはいいな！モンスター達の棲みかにもなるし」
「そっか、じゃあ俺は腹へったから食べてくる」

「おう、ありがとな！」

⇒　　⇒　　⇒

・・・・・・レイは今、雪山に居る。　いや、雪山のポポをじっくりと味わいながら腹を満たしている。

「うんめぇぇ！」

レイの食べる肉からは真っ赤な鮮血が滴り落ち、肉の新鮮さを表していた。

レイは肉を飽きることなく食べ続け、ポポの体・・・・・・肉は半分ほどまで減ってきた時だった。

レイにポポの肉を狙う影が忍び寄る。

影がレイに近づくが食事をしているレイは気づかない。

・・・・・・レイが気づいていないことがわかった影は、レイの後方から襲いかかった。

「ガアァァァ！！」

「はぁ？」

・・・・・・しかし、象牙色の鋭い牙はレイの身体へ届くことなく、影は大きく吹っ飛んだ。

・・・・・・影の正体は轟竜ティガレックス。これが吹っ飛んだのはレイが振り向き様に尻尾を振ったためである。

「・・・・・・ア゛！？てめェ！人様の飯の邪魔しやがって！何があっても五体満足で帰れると思うな！」

食事を邪魔され怒ったレイは両翼で風を起こした。　それに気がついたティガレックスはその場を素早く離れる。

シュパッ！！

・・・・・・ティガレックスが先ほどまでいた場所に深い斬撃の跡ができる。

レイが放ったのは風ではなく『斬』（技？名）。斬とはレイが神様に貰った太刀が翼になっていたことにより使えるようになった『鎌イタチ』だ。

斬は鋭利な刃物を音速以上で振ることにより、見えない刃を飛

ばす技。（飛びながら連発可）
「チッ！避けたか。・・・・・・まぁ、いい。早くしないと肉の鮮度が落ちるからな。（人語を使うのはデフォルト）」
「グァァァ！！」
二体の化物は御互いを睨み付ける。
そして、二体の視線が絡み合う。
「今すぐ火葬してやる」
レイは大きく空気を吸い込んだ。ティガレックスはその場を動こうとするが、体が動かない。・・・・・・死への恐怖に体が全体が震えているのだろう。
今まで獲物を狩る側だった者が狩られる側になったのだ。ティガレックスは生まれて初めて狩られる者の恐怖を味わった。
レイは先ほど吸い込んだ空気を吐き出す。それと同時に辺り一帯は眩い光に包まれた。
⇒　　⇒　　⇒

おっちゃんと……（後書き）

感想・アドバイス・指摘おねがいします。

オリモンアイデア募集中です。

読んでいただきありがとうございました

もう一度（前書き）

更新遅れました。すみません><

これからは少しこの作品の見直しをしたいので、遅れることと思います。

ではどうぞ

もう一度

レイは、食事を邪魔されて、カッ！となり轟竜――ティガレックスを消してしまった。

そこはいいのだが、ティガレックスどころか雪山の一部も・・・・・・・消し飛んだ。　――ヤっちゃった・・・・・・テヘッ！

――ヤっちゃった、じゃねぇよ！どうすんの？俺！　レイは、頭のなかで自問自答？しながらｏｒｚのポーズをとる。だがしかし、今のレイの体は四足歩行するためのものだ、そのためｏｒｚではなく、犬のお座りと余り変わらない格好になってしまう。　と、まぁそんなことはどうでもいい。今回、轟竜と雪山一部を消し飛ばしてしまったことについては過ぎてしまったことはしょうがないため、レイは考えるのはやめた。

使ったブレスについて、レイの鱗には特性があり、色が透明であるこの鱗は光が当たると、その光は鱗内で反射し続け、出てこなくなる。そしてレイは、この鱗内で反射し続ける光を体内に吸収し、その光を収束させレーザーにして使ったのが、レイのブレスである。

――というように、言ってしまえば体の何処からでもレーザーを放てるのだ。　レイは原理など全く知らないまま、力を使っているのだが。

そして、鱗内に光を溜め込むことから昼夜問わず発光している。

残っていたポポの肉を食べ終わり、レイはマイホームに戻ろうと羽ばたいた、そのとき、――――ガサッ！「きゃっ、あ・・・・・・・え、ええと」

雪を踏みしめた音の後、可愛らしい女の子の声がした。

レイは音のした方を見るとレイアシリーズを身に纏った、十七歳ぐらいの少女が尻餅をついているのが、目に入る。

「あ・・・・・・・、キャァァーー！！」

尻餅をついていた少女は、レイを見つけたとたん、目にも止ま

らぬ速さで走り去って行った。
「グルゥ・・・・・・」
レイは人間のものではないため息をついてしまう。
それもそのはず。レイは今まで、人の前に姿を現さなかった。そのため、新種の調査・・・・・・という名目だが、恐らくティガレックスを消したことで、危険とみなされハンターの派遣、もしくは監視される。
もしかしたら、あの少女がギルドに、報告しない可能性もある。だが、その可能性は限り無く零であろう。何故なら、レイの姿は古から天災と恐れられる古龍と同じ四足歩行であり（まぁ、ヤマツカミと言う例外もいるが。）、ティガレックスを殺したからである。
そのようなことを考えながらレイは何時までも、ここに居ては不味いと思い、考えを巡らせる。
――その瞬間、レイは光に包まれ、先ほどレイの立っていた場所には、一人の青年が立っている。
「ふあぁ～」
青年は寝起きのように体を反らせ、背伸びをする
その青年の容姿は、透き通るような腰まで伸びた白髪。白磁の陶器ような肌。顔は美女のように線が細く整っており、その体は華奢で無駄が一切無い。そして、青年の正体はレイである。
何故レイが人の形をとれるのか？それは神の力によるものだ。
レイがこの世界に来てから三年ほどたった頃、突如レイの目の前に神が表れ『・・・・・・あの娘も、この世界に来ているはずだから、いつでも使えるように』と言い残し、消えた。
あのときは、どういうことかレイは理解できなかった。しかし今は、再び人の形をとったことにより、思い出したのだ大切な人――麗のことを。そしてレイは思った。
「もう一度、逢いたい・・・・・・麗に！」
今、この世界にいるかもわからない麗を、レイは探しにいこうとしているのだ。麗もう一度逢いたい。このときレイは彼女を世界

の果てまで探そう、そう覚悟した。

β　　β　　β

ハンターに成るには二つの方法がある。大半は、ハンター育成所により・・・・・・基本的なモンスターの習性、生息地を学んだ後、先頭訓練を行う。その期間、実に三年。三年間の研修を終え、卒業試験を合格したものがハンターとなる。

それ以外の極少数はモンスターの基本知識に関する筆記試験を受けた後、実技試験を行う。こちらは、育成所と違い三年間の研修は無いが合格率は、僅か１５％と狭き門である。ハンターの資格は王国から与えられるため国家資格となる。

書籍・・・ハンターとは　　より一部抜粋。

もう一度（後書き）

指摘やアドバイス感想

オリジナルモンスターのほうもおねがいします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0063u/

これで貴方も夢のチート転生者くん（オリ主はモンスター）

2011年11月13日11時59分発行